整形外科緊急手術時における医師事務作業補助者の役割

○田中 有希子[1)]、陶山 沙弥[1)]、岡本 真弥[1)]、檜谷 興[2)]

社会医療法人社団　沼南会　沼隈病院
医局（ドクターアシスタント）[1)]、整形外科[2)]

【はじめに】

沼隈病院（以下、当院）整形外科では、多職種で協働して質の高い骨折治療に日々努めている。その中で、開放骨折や動物咬症、挫滅創は、感染などの合併症の発症リスクを抑えるため、できるだけ早く処置を行う必要がある（golden time:受傷後 6～8 時間以内）。当院では、常勤整形外科医が 1 名のため、緊急手術となった際、様々な調整・業務プロセスが発生する。医師は、緊急手術までの合理的スケジュールの立案を行い、それに沿い、医師事務作業補助者は、検査や感染症ワクチン等の代行オーダー、患者の情報収集と入力支援、同意・説明書の準備、手術パスの適応、外来予約患者の調整など事務的支援を行う。今回、整形外科緊急手術時における医師事務作業補助者の役割について検証を行った。

【検証方法】

2018.4.1～2023.3.31 の期間に手術室を利用して緊急手術を行った開放骨折、動物咬症、挫滅創の症例を対象とし、①整形外科受付から術前検査オーダーまでの時間、②整形外科受付から入院登録までの時間、③整形外科受付から手術開始までの時間、④術前検査オーダーから入院登録までの時間、⑤術前検査オーダーから手術までの時間、⑥緊急手術対応時の外来診療人数の平均値を算出し、医師事務作業補助者の介入率と比較した。

【結果・考察】

医師事務作業補助者の介入率増加とともに、①～⑤は時間短縮、⑥においては増加がみられた。各時間や診療患者数には複雑な要因が関係しているが、要因の１つとして、医師事務作業補助者が、チーム医療の一員としての活躍している効果と推察が可能である。また、医師からも医師事務作業補助者の働きは有益であると良好な声をいただいている。

【結語】

医師事務作業補助者は「支援するという専門職」として、多職種と業務を分担しつつも互いに連携・補完し合い、チーム医療の一員として活躍することで、医療従事者の負担軽減効果と患者の状況に的確に対応したより効率的かつ最良の医療を提供への一助となる。